

(様式2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		県単交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)松川インター大鹿線			
事業毎の通番		4	市町村名	中川村	箇所名(ふりがな)	渡場(どば)		
事業概要	事業目的	本路線は中央自動車道松川ICを起点とし、中川村を經由し大鹿村の(主)松川大鹿線まで下伊那地域を東西に結ぶ約16.6kmの幹線道路であり、各地域を結ぶ生活道路である。 JR東海によるリニア中央新幹線の工事では膨大な残土が発生し、当該路線が搬出路となることが想定されており、最大で約1,700台/日の建設車両が増加する見込みとなっているが、歩道が未整備であるため児童や住民の安全が懸念されるところである。 地域住民からも安全対策要望が高まっていることから、歩道整備により歩行者の安全を確保する。						
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	第5編 施策の総合的展開 第4章 4-2 県民生活の安全確保 第5章 5-2 快適で暮らしやすいまちづくり		事業実施の根拠法令等	社会資本整備重点計画法 交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	リニア中央新幹線工事						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	中川村東小学校 通学者他 住民 現況自動車交通量:1,673台/日、現況自転車歩行者交通量:10台・人/12h						
	着手年度	平成27年度	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	平成28年度	費用対効果	—	国庫	—	—	—
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工(片側) L=80.0m W=2.0m			10,000	—	—	10,000
	年度事業内容(主な工種)	測量・設計 1式	3,000	—	—	3,000	—	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	利用者の安全確保、特に交通事故の回避が期待される					
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
評価の視点	必要性	○現況自動車交通量 : 1,673台/日 ○現況自転車歩行者交通量 : 10台・人/12h (リニア工事車両約1,700台増加)					評価	B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 1つ整合(リニア工事関連) ○緊急輸送道路の路線指定 : あり					評価	A
	効率性	○事業期間 : 2年間(H27~H28)					評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : なし ○通学路対策 : 中川村立東小学校通学路 ○現況の歩道幅員 : 歩道なし					評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係地権者には地元区から周知している ○地域の取り組み : 協力的である。(地域住民や市町村から事業計画に対して要望あり) ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている(地権者同意書有り) ○住民との協働 : 関与については不明					評価	B
	部意見	リニア新幹線工事が本格化すると、ダンプトラックの通行路線になるため、歩行者の危険性が增大する。 その前に、見通しの悪い交差点部の歩道整備を行い、安全性を確保する必要がある。	行政改革課意見	重要性が認められる。	評価結果	○	総合評価	B

### 位置図

### 標準横断面図

### 平面図

### 状況写真

### 事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は、中川東小学校の通学路であり歩道がなく危険な状況。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	リニア工事に伴い要望が出されてきた。地元の地区からも中川村を通じて歩道設置の要望が出されている。
③事業説明等の経緯	特になし
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	リニア新幹線工事
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	現道に歩道を設置することにより、住民生活環境を大きく変えることはない。
⑥地域活性化への影響と配慮	歩道設置がされると歩行者の安全が確保され、事故が回避される。
⑦その他	特になし

事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 36' 20"
	東経:E 137° 55' 57"